

# 平成27年渇水における鳴子ダムの効果

## －かんがい用水、発電用水を確保－

鳴子ダムは、7月以降貯水位が著しく低下し、平成24年以来の渇水になりました。

今回の渇水により厳しい貯水池状況のなか、鳴子ダムでは関係利水者と随時情報を共有しながら綿密な連絡調整を行い、計画的にダムを運用し「かんがい用水」「発電用水」を確保しています。

### 【平成27年渇水の概要】

#### ●太平洋高気圧等の影響により、鳴子ダム周辺は少雨

- ・7月1日～8月23日の鳴子ダム流域平均雨量は計247mm。  
10ヶ年平均474mmに対し約59%。

#### ●著しい貯水位低下

- ・8月13日に、今回の渇水で最も低い水位 EL.233.08m（貯水率11%）。

### 【鳴子ダムの効果】

#### ●かんがい用水の確保

- ・食料生産基地である大崎平野にかんがい用水を補給し、コメ減産を未然に防止するよう努めた。【補給量：約14,000千m<sup>3</sup>（7月1日～8月23日）】

#### ●発電取水の確保

- ・鳴子発電所の発電用水を確保し、取水停止を回避することができた。  
【最低取水量6.0m<sup>3</sup>/s以上供給】

（参考：今回の渇水と平成24年渇水との比較）

	平成24年	平成27年	備考
流域平均雨量	263mm	247mm	7月1日～8月23日
貯水位 （貯水率）	EL.231.39m （2%）	EL.233.08m （11%）	渇水期間中最も低い水位
補給量（千m <sup>3</sup> ）	約16,600千m <sup>3</sup>	約14,000千m <sup>3</sup>	7月1日～8月23日
発電用水の取水停止	あり（15日間）	無し	鳴子発電所

※各数値は速報値です。

※鳴子ダム管理所では、渇水対策支部（注意体制）を継続中です。

記者発表資料についてはホームページでもご覧になれます。  
《 鳴子ダムホームページ<http://www.thr.mlit.go.jp/naruko/> 》

問い合わせ先

国土交通省 東北地方整備局 鳴子ダム管理所

所長 齋藤 信哉（内線201）

専門職 工藤 一志（内線330）

〒989-6806 宮城県大崎市鳴子温泉字岩淵2-8

TEL 0229-82-2341 FAX 0229-83-3855

# 平成27年渇水の概要

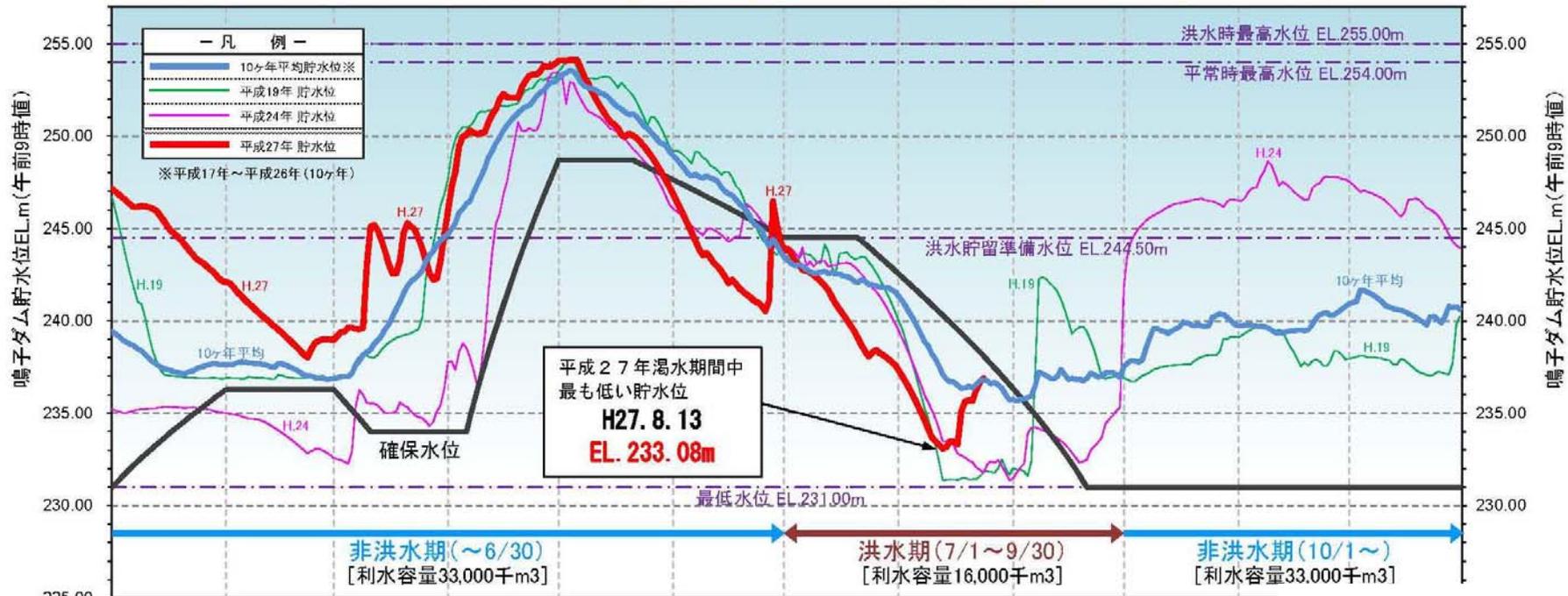
【鳴子ダム管理所】

- 8月13日に、平成27年渇水で最も低い水位 **EL. 233.08m** (貯水率 11%)。
- 7月1日～8月23日の鳴子ダム流域平均雨量は計 247mm、10ヶ年平均 474mm に対し **約 59%**。

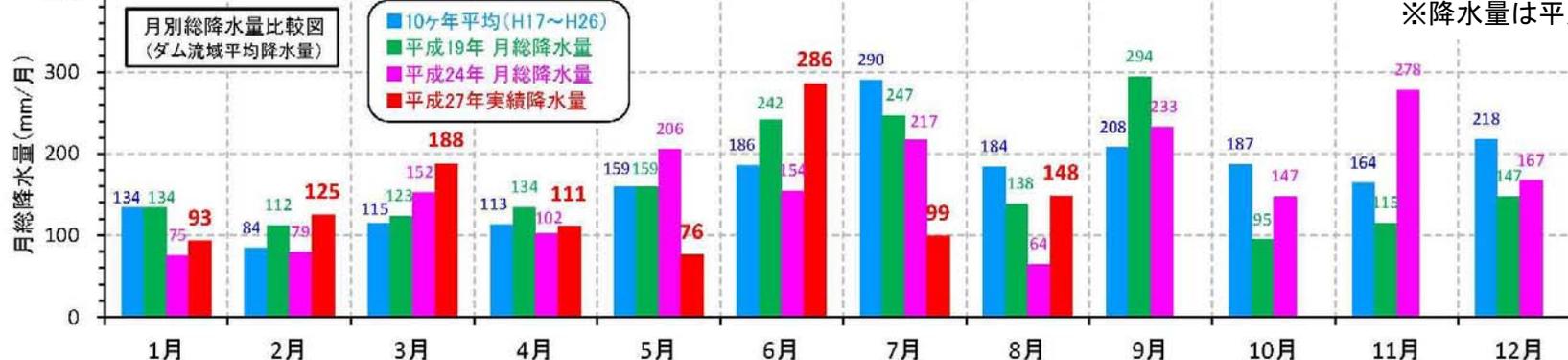
※各数値は速報値です

【鳴子ダム年間貯水位曲線図】

【総貯水容量】50,000千m<sup>3</sup>、【有効貯水容量】35,000千m<sup>3</sup>、【洪水調節容量】19,000千m<sup>3</sup>



※貯水位は平成27年8月24日午前9時時点  
※降水量は平成27年8月23日現在



# 平成27年渇水におけるダムの効果 【鳴子ダム管理所】

## 【出穂期のかんがい用水の確保】

- ・ 鳴子ダムでは、渇水状況下において「かんがい用水」の安定供給を図り、水稻の健全な生育に寄与した。

### 鳴子ダムからの補給量

平成27年7月1日～8月23日まで 約14,000千m<sup>3</sup>

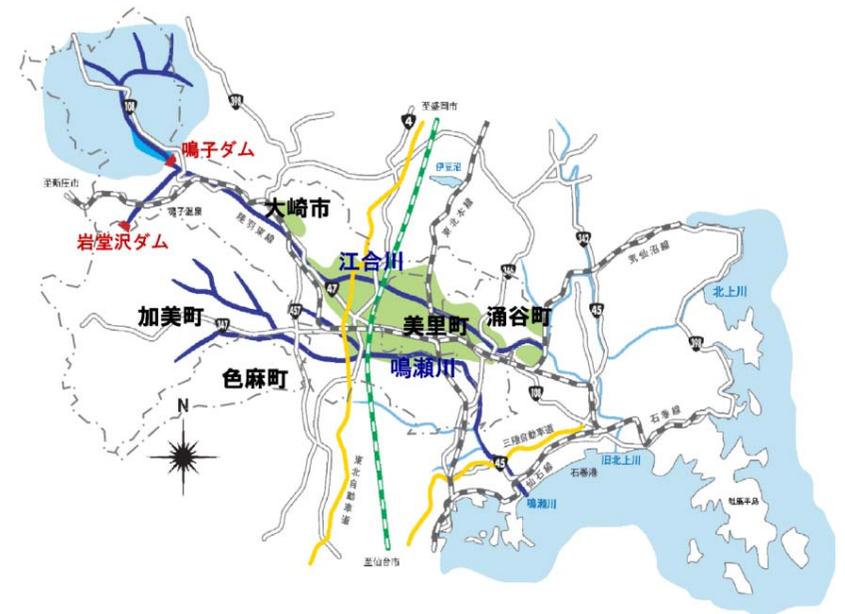
※各数値は速報値です

## 【地元農家による用水管理の努力】

- ・ 地元利水者と綿密な利水調整を行い、その結果、土地改良区において**自主的な節水（番水制）**を実施するなど、**渇水に対し関係機関が一丸となって取り組むことができた。**



出穂状況（平成27年8月18日 大崎市川渡地区）



かんがい用水補給区域概略図

## 【発電用水の確保】

- ・ 鳴子ダムでは、利水者（東北電力）と調整を図りながら最低取水量 $6.0\text{m}^3/\text{s}$ 以上の発電用水を供給し、**取水停止を回避**することができた。

7月25日～7月28日 約 $8.0\text{m}^3/\text{s}$ 、 7月28日～8月 1日 約 $7.0\text{m}^3/\text{s}$   
 8月 1日～8月10日 約 $8.0\text{m}^3/\text{s}$ 、 8月11日以降 約 $6.0\text{m}^3/\text{s}$

## 【他ダムとの連携】

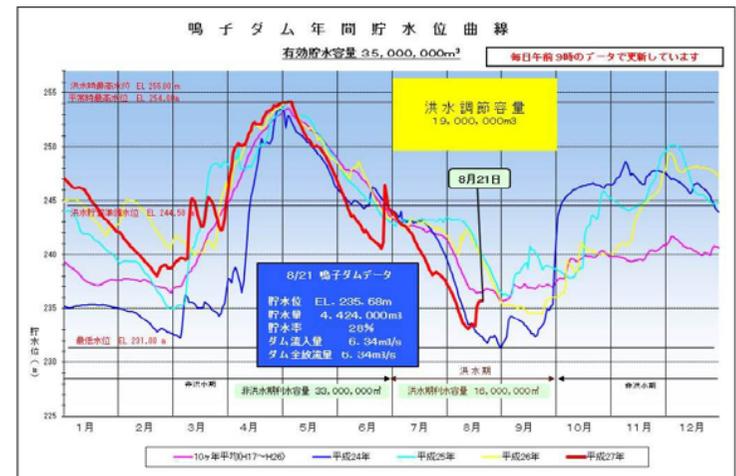
- ・ **岩堂沢ダムと連携した放流**を行い、ダムの貯水容量減少を極力抑えつつ、かんがい用水を確保した。

出穂期（8月9日）まで	鳴子ダム：約 $8.0\text{m}^3/\text{s}$	岩堂沢ダム：約 $4.0\text{m}^3/\text{s}$
番水制開始（8月10～11日）以降	鳴子ダム：約 $8.0\text{m}^3/\text{s}$ （8月10日）	岩堂沢ダム：約 $2.0\text{m}^3/\text{s}$
	鳴子ダム：約 $6.0\text{m}^3/\text{s}$ （8月11日以降）	岩堂沢ダム：約 $2.0\text{m}^3/\text{s}$

## 【鳴子ダムにおける広報】

- ・ 鳴子ダム管理所ホームページにおいて、**ダム諸量情報をリアルタイムで公開**するほか、毎日（開庁日）ホームページ上にて**貯水位曲線**（平成27年、平成26年、平成25年、平成24年及び10ヶ年平均）を掲載し、情報発信に努めた。

※各数値は速報値です



# 平成27年渇水におけるダムの効果 【鳴子ダム管理所】

【参考：貯水位低下状況】

ダムから補給した結果、8月13日には水位が 10.8m 低下し、貯水量も 1,777 千 $m^3$  (貯水率 11%) まで減少した。  
(7月2日起算)

※各数値は速報値です

平成27年7月2日 (※1)



※1：7月以降8月24日までに、最も高い貯水位を記録した日

貯水位 EL. 243.88m  
貯水容量 15,086千 $m^3$   
貯水率 94%

注：数値は午前9時値

平成27年8月13日 (※2)



※2：平成27年の渇水において、最も低い貯水位を記録した日

貯水位 EL. 233.08m  
貯水容量 1,777千 $m^3$   
貯水率 11%